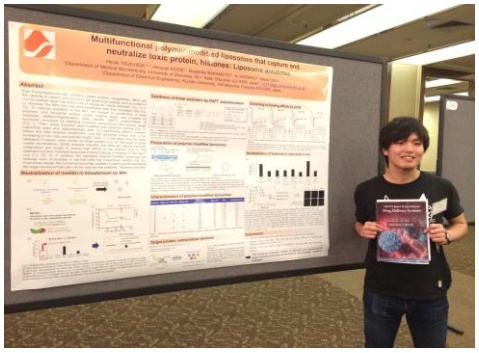
日米 DDS シンポジウムにてポスター発表

私は 2015 年 12 月 16～20 日にアメリカ合衆国ハワイ州ラハイナで開催された The 13th US-Japan symposium on Drug Delivery Systems（日米 DDS シンポジウム）でポスター発表を行いました。

抗体医薬品は、高い特異性とともに副作用が少ないことで注目されているが、生産コストが高く、不安定です。私は、抗体医薬品の弱点を改善するために、安価な材料で簡単に作製可能であり、作製後も長期間保存可能なナノ粒子を作製し、ナノ粒子の人工抗体としての可能性を見出す研究を行っており、今回「血中で毒素を中和する『リポソーム解毒剤』の開発」という題目で研究成果を発表しました。

本学会には、アメリカのみならず、世界中のトップレベルの研究者たちが参加していたため、自分の研究について様々な意見を聞くことができ、非常に充実した時間を過ごすことができました。また、世界中の最先端の研究についても勉強することができたため、今後自分の研究を行っていく上で貴重な知識を得ることができたと思います。

本学会に参加したことで、多くの刺激を得ることができ、自分はさらなる高みを目指すために努力しなければならないと思いました。研究に対する意欲が高まり、極めて有意義な経験となりました。



薬食生命科学総合学府　薬科学専攻　医薬生命化学教室
博士前期課程 1 年　土田 大貴